

「賢い視聴者・読者になろう」

千葉県立東葛飾高等学校教諭

福島 毅

お問い合わせ→ tohkatsu_joho@yahoo.co.jp

1. はじめに

私たちの生活には日々、シャワーのようにマスメディアからの情報が降り注ぎ、それらの情報の何が真実で何が虚構かを迅速に見極める力が必要とされる。

児童・生徒の読解力低下の問題がクローズアップされている今、私はテキストベースの素材をしっかりと読み込ませ、討論も取り入れたメディアリテラシーの授業の必要性を感じた。本発表は、授業は前任校の松戸市立松戸高等学校において平成20年9月に1学年の国際人文科生徒1クラスを対象に5時間かけて行ったメディアリテラシーの授業実践報告である。

2. なぜ報道素材なのか? その理由

報道に関連したテキストベースの素材を使用した主な理由は以下のとおりである。

①生徒は、まとまったテキストを読みこなす習慣が乏しいこと。②報道されることを鵜呑みにしてしまうことによる社会混乱、報道のねつ造などの問題が近年多く発生していること。③生徒は、マスメディアによる報道は正しいと思い、無批判に受け入れているケースが多い。④社会参画の気持ちを高めるためには報道資料を積極的に取り上げる必要がある

また、画像が訴求力を持つメディア社会であるが、あえて活字のメディアをじっくり読み解かせることで、情報発信者の狙いを論理的に解明していく面白さを味わわせたいという思いもあった。

3. 授業の流れと実践内容 (詳細はポスターにて)

1限 講義: 授業ガイダンス (身に付けさせた力, 授業のねらい) 実習: 班編制

2限 講義: マスメディアによる事実誤認とねつ造問題 実習: ねつ造事件検索

3限 講義: 報道ができるまでのプロセス, 報道比較 実習: 資料集め「全国学力調査」

4限 実習: ミニ討論「全国学力調査」

5限 確認テスト: 1限~4限のまとめ, 「小学生の携帯電話是非を問う」

4. 生徒の授業後の感想

授業後の生徒の感想には以下のようなものがあった。

() 内は人数を表す。

・テレビなどで流れるニュースでも必ずしも正しい情報が流れるとは限らないことを知った。・情報を鵜呑みにしてはいけない。(9)・普段よりもニュースを見るようになった。(3)・これほど多くのねつ造があるのに驚いた。(3)・ディスカッションは戸惑ったが、たくさんの意見を聞いて良かった。人の意見を聞くことで視野が広がった。(3)・ニュースや新聞記事などにあまり大きな影響を受けない方がよいと思った。テレビニュースもあまり動揺しないで見ていきたい。・同じ記事でも記者によって意見が違うことがわかった。なるべくそれらに影響されないようにしたい。・図書室の授業では仲間とのコミュニケーションを取ることが多く、とても難しく感じた。・文章を書く場面が多く難しかった。・新聞を違った角度から見ることができた。・ニュースは半信半疑で見ていこうと思う。騙されないようにと考えるようになった。・新聞やテレビにもねつ造があって「今まで信じてきた情報が嘘であることもある」と知ってショックだったし、それならどれが本当なのかと思った。・今回の学習で、異常性が高く悪いニュースほど報道されやすいことを知ったが、そういうニュースの繰り返しだから国民の生活が暗くなる。善いニュースももっと取り上げれば人の励みになると思う。

これらの感想を読む限りにおいては、おおかた今回の学習目標は達せられたのではないかという感触を得ているが、感想を全く書いていない生徒もおり、他の機会もとらえてスパイラル的に教材提示していく必要がある。

5. まとめと課題

批判的にメディアを読み解くにはテキストベースの読解力は必須のスキルである。読解力に関して言えば、小中高を通して新学習指導要領において、すべての教科において読解力の向上が意識されて組み込まれている。このことは、読解力なくしては多様で複雑化した現代社会の問題の本質をとらえることも問題解決に至ることもできないというメッセージではないだろうか。

今回の実践授業をきっかけに、批判的にメディアをとらえる授業を今後も実践していきたい。

参考文献等 (ポスターにて)